

平成30年度

岡山県内におけるカワウ生息状況調査報告書
(コロニー営巣及びねぐら利用数規模調査)



日本野鳥の会岡山県支部

平成30年 7月

岡山県内におけるカワウ生息状況調査

I. 目的

近年、個体数・分布域が増加・拡大し、農林水産業等に被害を与えているカワウについて、生息状況を把握し、今後の鳥獣被害防止対策の適正な推進のための基礎とする。

II. 調査方法

県内のカワウの繁殖地（以下「コロニー」という。）及びねぐらを観察し、カワウの生息状況について調査した。

1. 調査回数及び調査時期

年2回（夏季、冬季）の内、今回の調査は夏季調査について報告する。

カワウの生息状況調査のため、コロニー（集団繁殖地）における営巣数及びねぐら入り個体数調査を5月上旬から6月上旬にかけて行った。

2. 調査場所

県内のコロニー及びねぐら

3. 調査事項

ア コロニー及びねぐらの個体数

① 面積，利用樹種，樹高等

② 営巣数

イ カワウの個体数等

① コロニー及びねぐら入りしている個体数

② コロニー及びねぐらへ帰還してくる個体数及び飛来方向

4. 繁殖状況調査（コロニー営巣規模調査）

カワウは産卵から巣立ちまでの期間が最短でおよそ70日である。この間に調査を行えば、重複や数え漏らしなどを少なく抑えることができる。

カワウの巣のステージ（産卵後の日数）は、大まかに外見から判断することができる。D段階、E段階のヒナ数を調査することで巣のヒナ数の推定ができる。

繁殖段階の判別

1： 空巣

2： 親 造巣行動

3： 親 ディスプレイ その他

- 4 : 親 抱卵 親 : ステージA
胸から腹をしっかりと巣に押し付け、尾羽が背に対して垂直に上に向くという典型的なポーズをとるので、判定しやすい。
抱卵日数は25~28日である。
- 5 : 親 抱雛 親 : ステージB
- 6 : ヒナ 孵化後1週間くらいまで . . . ヒナ : ステージB
ヒナが小さいうちは、抱卵と区別が難しい、餌やりを始めたころから観察していると判別はできる。孵化後47~60日で巣立つ。
- 7 : ヒナ 孵化後3週間くらいまで . . . ヒナ : ステージC
ヒナの翼の羽軸が少し出てきている。
- 8 : ヒナ 孵化後5週間くらいまで . . . ヒナ : ステージD
ヒナの翼の産毛が抜けるが、頭に産毛が残る。
- 9 : ヒナ 巣立ち間際まで . . . ヒナ : ステージE
ヒナの身体全体から産毛がなくなる。
(繁殖状況調査用紙は資料ページに添付参照)

調査時の調査表への観察状況表示方法

- ① コロニーの調査では、巣の状況を観察してゆきますが、その時の親の欄には親の状況を記号化して表記してゆく。
T : 巣の近くに親が立っている。
(繁殖段階ランク : 2 又は 3)
次の3つの表示は、巣に座っている親の尾の角度や体の沈み具合で見分ける。
S : ただ座っているだけ。(繁殖段階ランク : 3)
A : 抱卵中 ((繁殖段階ランク : 4 又は 5)
B : ランクBのヒナを抱卵中
- ② ヒナの欄には、上記のヒナ : ステージ表記を記載する。
- ③ 樹種、巣高の欄はカウントした場所が分かるようにできれば記載する

Ⅲ. 調査結果 (コロニー営巣数規模)

繁殖状況調査 (コロニー営巣数規模調査) を5月上旬から6月上旬の間に実施した。県下でコロニー数は、吉井川水系で7箇所、旭川水系で5箇所、高梁川水系で5箇所そして海岸域で3箇所 合計20箇所確認できた。そのコロニーで営巣していた巣数は833巣を確認した。(表-1)

ただ、5月の繁殖状況調査では、営巣木および周囲の樹木の葉が茂り、確認できなかった巣も多数あったものと思われる。

営巣の状況では、県南部では、すでにヒナが巣立ちをして空巣も多数有った。一方県北部では、ちょうど抱卵期に入った状況のコロニーが目立った。

表-1 カワウのコロニー営巣数 確認調査表(平成30年度)

吉井川水系					
No.	河川名	コロニー(繁殖地)の所在場所	調査日	営巣数	備考
1	吉井川	岡山市東区川口 中州	5月5日	145	
2	金剛川	和気町 藤野	5月22日	8	
3	吉井川	和気町塩田 備作大橋下流	5月22日	5	
4	吉野川	美作市英田青野	5月20日	13	
5	吉野川	美作市岩辺	5月22日	5	小さくなっている
6	滝川	勝央町福吉 切池	5月22日	56	
7	広戸川	津山市日本原 広谷新池	5月16日	20	
8	倭文川	津山市桑下 坂見面池	5月22日	0	サギの利用のみ
		吉井川水系での営巣数		252	営巣地7ヶ所

旭川水系					
No.	河川名	確認した場所	調査日	営巣数	備考
1	旭川	岡山市中区中島 三野公園前	5月12日	259	県内最大コロニー
2	旭川	岡山市北区御津野々口	5月17日	25	
3	旭川	岡山市建部町吉田	5月19日	14	
4	旭川	美咲町浜尻 (旭川ダム)	5月29日	12	
5	旭川	真庭市落合町法界寺	5月24日	14	
		旭川水系での営巣数		324	営巣地5ヶ所

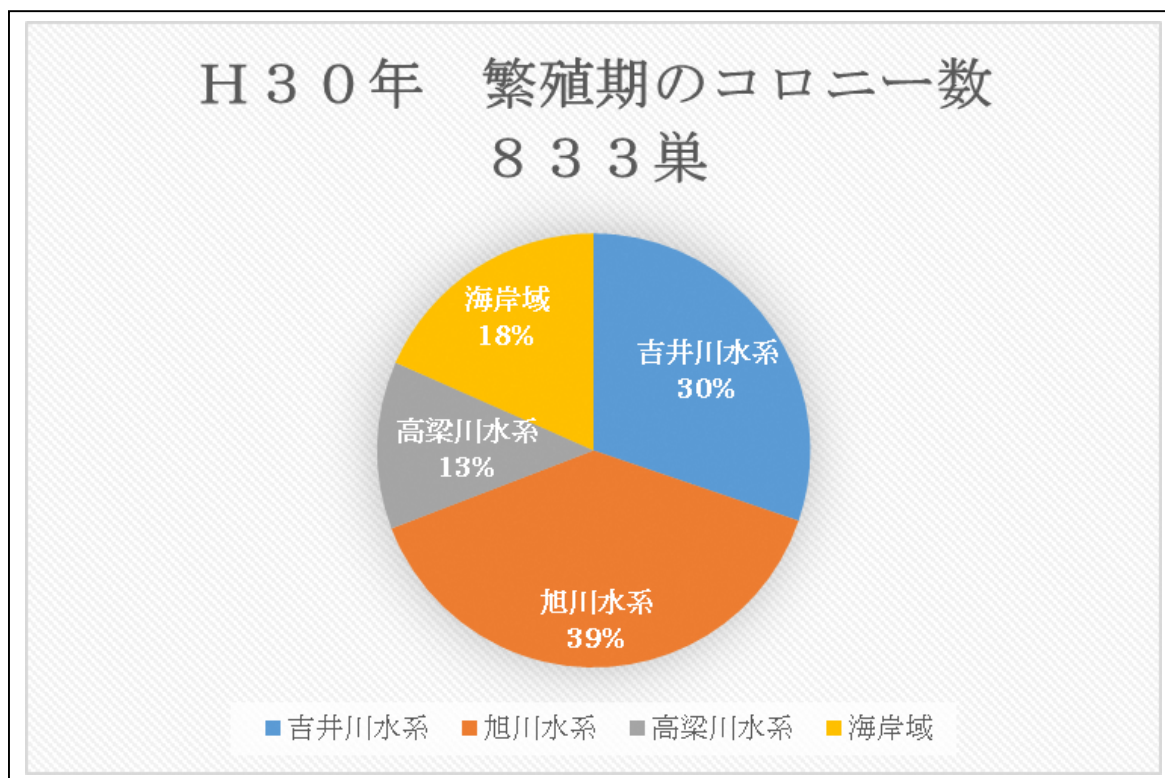
高梁川水系					
No.	河川名	確認した場所	調査日	営巣数	備考
1	高梁川	倉敷市水島川崎通り汐入川遊水地	5月26日	4	
2	高梁川	総社市福谷	6月1日	17	
3	高梁川	総社市 槻	5月31日	15	
4	高梁川	高梁市 中井町 西方	5月24日	31	
5	高梁川	新見市井倉 白谷橋下流	5月16日	0	利用なし
6	小田川	井原市 木之子町	5月22日	37	
7	雄神川	井原市美星町 星田池	5月28日	0	冬ねぐらのみ
		高梁川水系での営巣数		104	営巣地5ヶ所

海岸域					
No.	所在	確認した場所	調査日	営巣数	備考
1	海岸域	備前市 片上湾 前島	5月14日	14	一部伐採営巣地縮小
2	海岸域	倉敷市児島通生 葛島	5月6日	55	
3	池	岡山市東区千手 千手大池	5月8日	0	林伐採コロニー消滅
4	池	瀬戸内市牛窓町鹿忍 池	5月8日	84	
		海岸域での営巣数		153	営巣地3ヶ所

岡山県内における5月のカワウの営巣数	833
--------------------	-----

吉井川水系での営巣数は252巣、旭川水系での営巣数は324巣、高梁川水系での営巣数は104巣、そして海岸域での営巣数は153巣であった。その割合を図-1に示す。

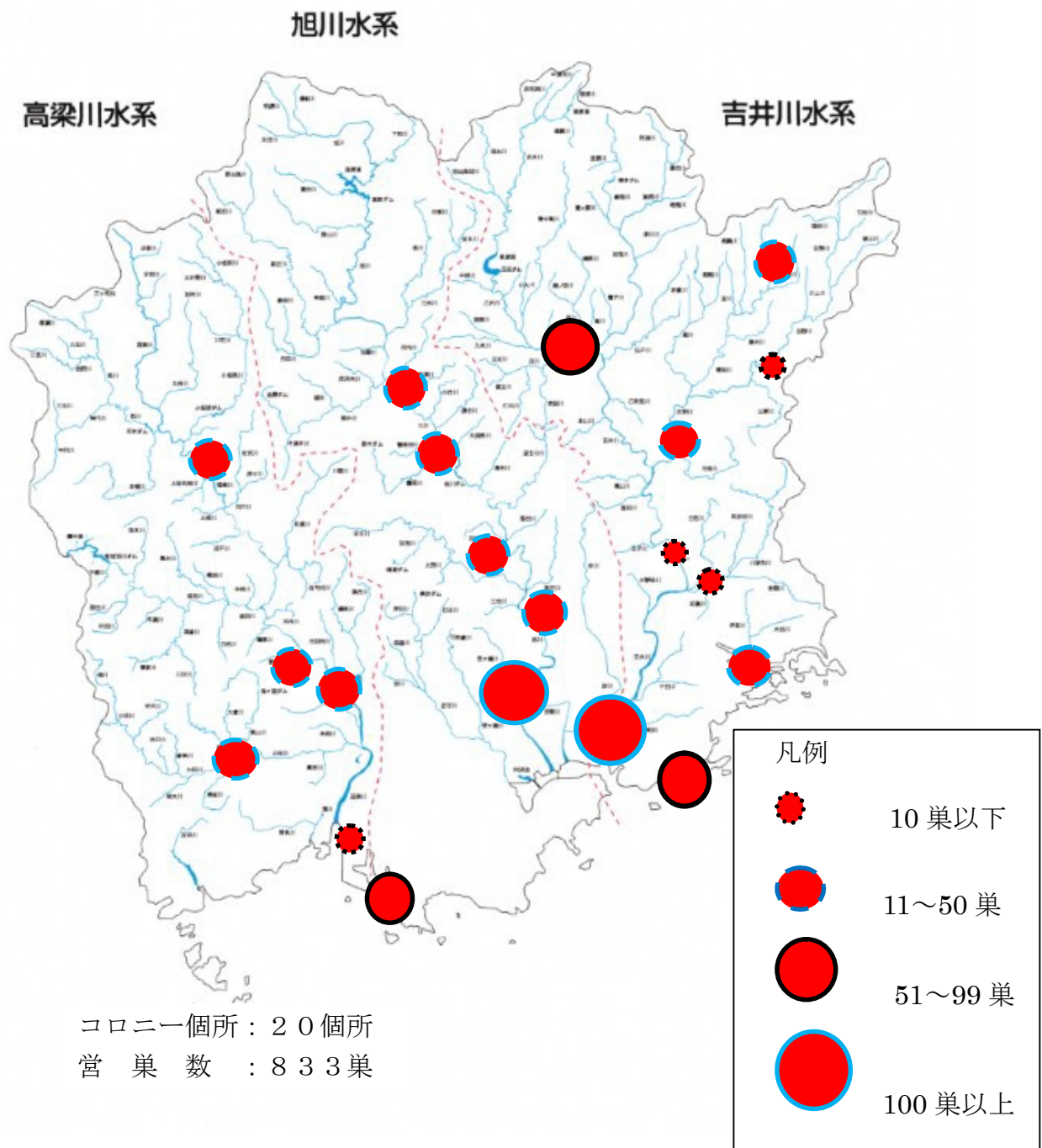
図-1



営巣数833巣の内、上位5位のコロニーは下記のとおり。()は昨年の営巣数

- ① 岡山市中区中島 三野公園前(旭川中洲) 259巣(268)
- ② 岡山市東区川口(吉井川中洲) 145巣(130)
- ③ 瀬戸内市牛窓町鹿忍の池 84巣(0)
- ④ 勝央町福吉 切池 56巣(58)
- ⑤ 倉敷市児島通生 葛島 55巣(73)

図一2 平成30年5月 カワウの営巣場所(コロニー)



IV. カワウ営巣数について考察

1. 昨年と比較して、吉井川水系では新たに津山市の広谷新池（20 巣）が出現しました。その一方で津山市桑下の坂見面池のコロニーが消滅していた。

- ・旭川水系においてはコロニー場所の変化はありませんでした。

- ・高梁川水系では新たに倉敷市水島の汐入川遊水池に新たにコロニーが出現し、ねぐら利用状況からここは今後大きくなる可能性があると思われる。新見市井倉白谷橋と井原市の星田池は昨年冬季ねぐらが有った場所を確認しましたが、コロニーとしての利用は無かった。

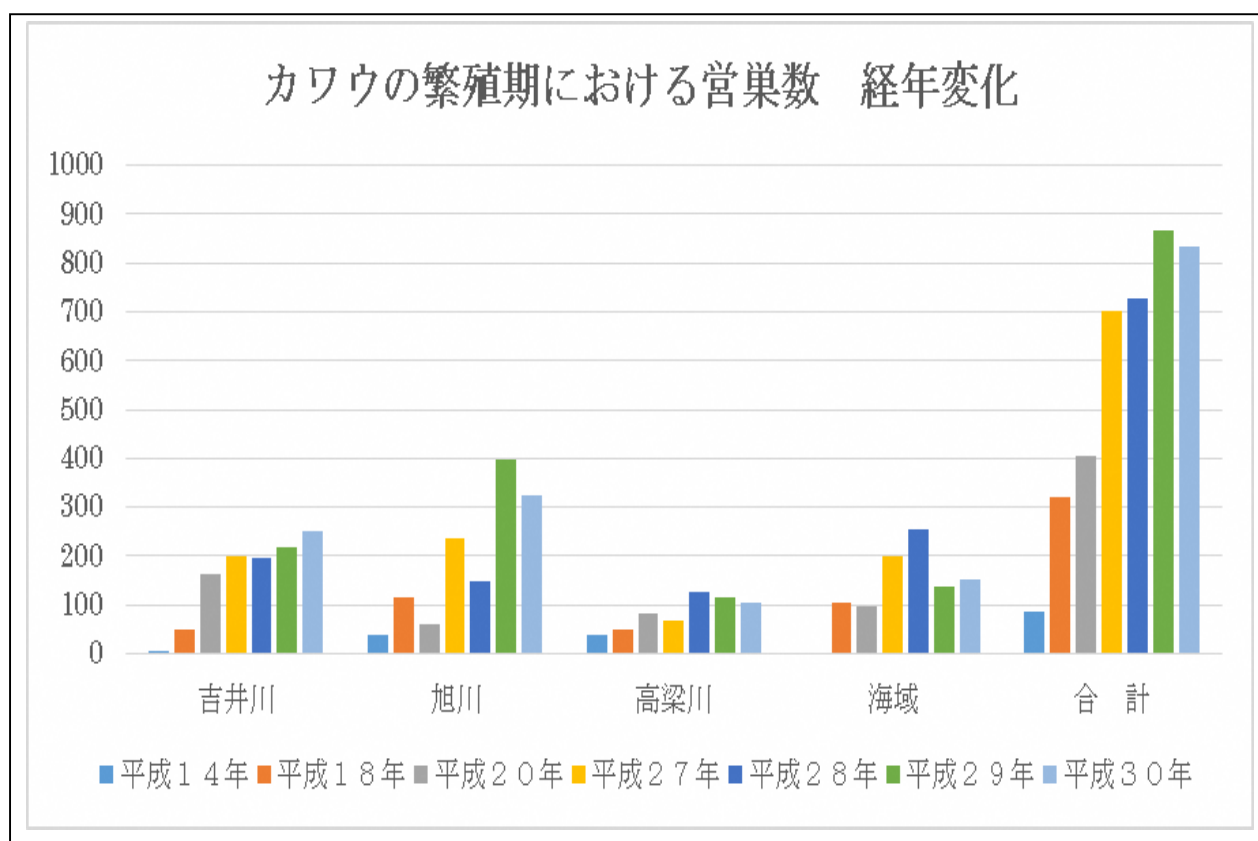
- ・海岸域では岡山市東区の千手大池でコロニーが消滅し、代わりにかなり近い場所の瀬戸内市牛窓町の放置民有地の池状になった場所にかかなり大きなコロニーが新たに出現していました。

県内全体のコロニー数昨年は19個所であったが、本年は2個所で消滅し、3個所で新たに出現し20個所となっていました。

2. 営巣数は、各コロニーで昨年と多少の増減はあるが大きな変化は見られない。

県内全体としても、昨年は868巣であったが、本年は833巣と35巣の減で大きな変化は見られない。 図-3に営巣数の経年変化を示す。

図-3



県内全体としては以前微増傾向にあると思われる。特に昨年・本年の状況では吉井川水系と旭川水系で共に大きなコロニーがあるため増加傾向が見られる。

V. 調査結果（ねぐら利用個体数）

カワウのコロニーにおけるねぐら利用個体数の調査を行った

1. ねぐら利用個体数調査方法

事前に調査をしたねぐら及びコロニーにおいて、日没前の17時ごろから、調査開始時にすでにねぐらに入っているカワウの個体数をカウントしておく。その後、ねぐら入りするカワウの個体数を方向別に時間と共に記録する。カワウがねぐらに帰還する時間帯は、日の入りから30分前後を目安として、調査開始に居た個体数に出入りした個体数を足し引きして最終的にその日にねぐらをとったカワウの数とする。

2. カワウ繁殖期の個体数調査結果

県内で繁殖期に生息するカワウの個体数は、2,196羽であった。

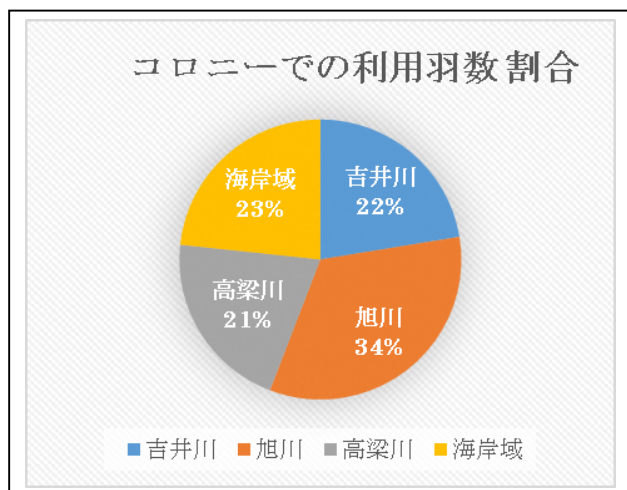
その内、吉井川水系で492羽、旭川水系で734羽、高梁川水系で458羽、そして海岸に近い島や池等海岸域で512羽であった。

5月のこの時期は、すでに巣立ちをして活動をしている若鳥も観察されたが、まだ夏ねぐらを造ってコロニーに帰らない個体は無いようであったのでコロニーへの帰還する個体数をカウントすることによってほぼ全数を抑える事ができたのではないかと考えられる。上記営巣数の項でも記載しているが、県内で確認できたコロニー・ねぐら数は20個所であった。吉井川水系で7個所、旭川水系で5個所、高梁川水系で5個所、海岸域で3個所であった。その内100羽を超える大型ねぐらが7個所あった。

①岡山市中区中島 三野公園前中洲（旭川）508羽、②岡山市東区川口 中洲（吉井川）242羽、③倉敷市児島通生 葛島（海岸域）240羽、④瀬戸内市牛窓町鹿忍池（海岸域）212羽、⑤倉敷市水島川崎通り 汐入川遊水池（高梁川）167羽、⑥高梁市中井町西方（高梁川）129羽、⑦勝央町福吉 切池（吉井川）123羽であった。カワウねぐら利用状況を図-3に個体数確認を表-2に示す。

この上位羽数確認地の5位までは県南部に存在するコロニーであるが、6位・7位のコロニーは県北部に位置するコロニーなので注目して行く必要があると思われる。

図-4



吉井川水系：492羽
旭川水系：734羽
高梁川水系：458羽
海岸域：512羽
合計：2,196羽

表-2 カワウのコロニー・ねぐら個体数 確認調査表(平成30年度)

吉井川水系					
No.	河川名	コロニー(繁殖地)の所在場所	調査日	個体数	備考
1	吉井川	岡山市東区川口 中州	5月10日	242	
2	金剛川	和気町藤野	5月26日	17	
3	吉井川	和気町塩田 備作大橋下流	5月27日	30	
4	吉野川	美作市英田青野	5月20日	22	
5	吉野川	美作市岩辺	5月30日	8	小さくなっている
6	滝川	勝央町福吉 切池	6月1日	123	
7	広戸川	津山市日本原 広谷新池	5月16日	50	
8	倭文川	津山市桑下 坂見面池	6月2日	0	サギの利用のみ
		吉井川水系での営巣数		492	ねぐら7ヶ所

旭川水系					
No.	河川名	確認した場所	調査日	個体数	備考
1	旭川	岡山市中区中島 三野公園前	5月12日	508	
2	旭川	岡山市北区御津野々口	5月27日	57	
3	旭川	岡山市建部町吉田	5月20日	56	
4	旭川	美咲町浜尻 (旭川ダム)	5月29日	37	
5	旭川	真庭市落合町法界寺	5月25日	76	
		旭川水系での営巣数		734	ねぐら5ヶ所

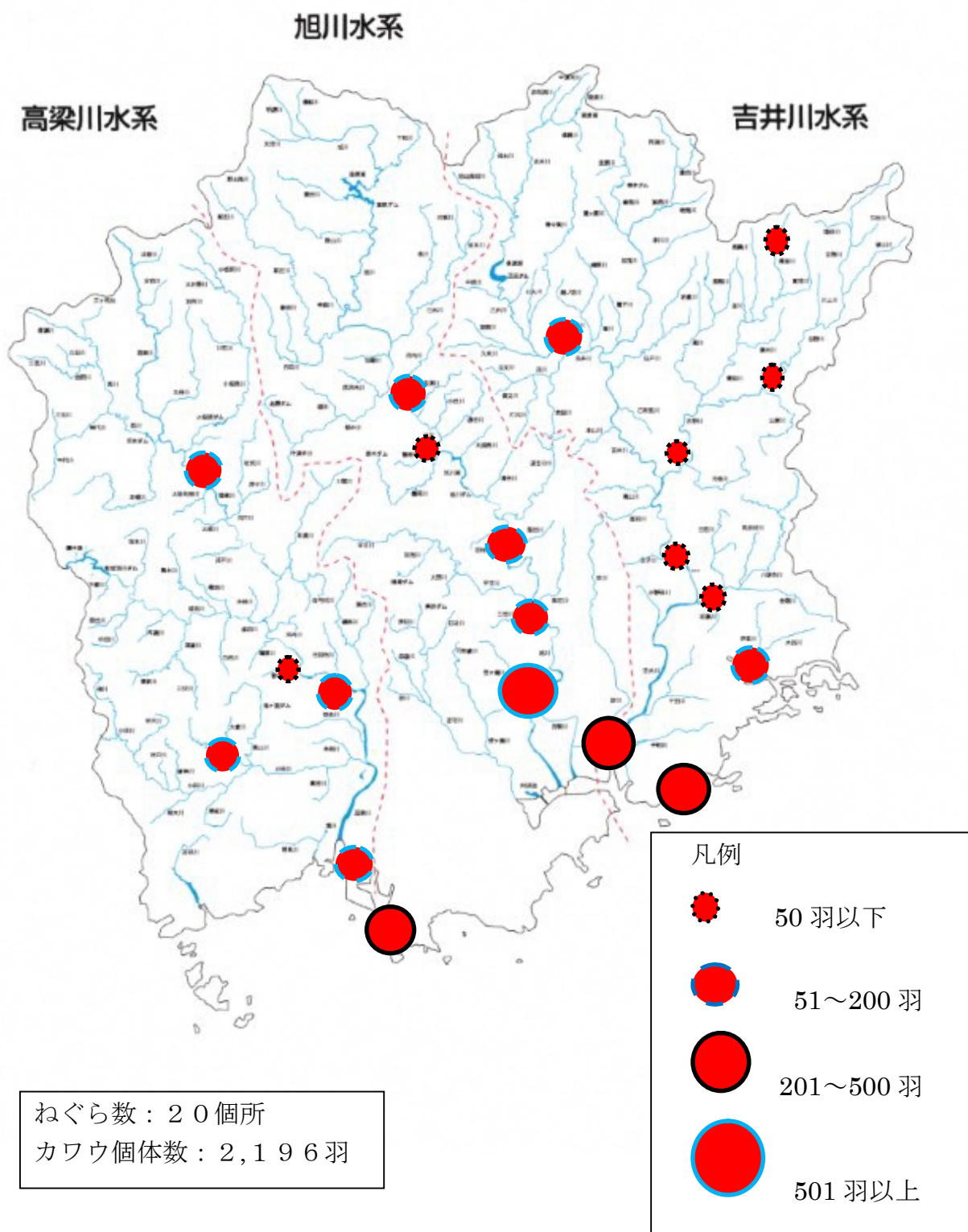
高梁川水系					
No.	河川名	確認した場所	調査日	個体数	備考
1	高梁川	倉敷市水島川崎通り汐入川遊水地	5月26日	167	
2	高梁川	総社市福谷	6月1日	59	
3	高梁川	総社市 槻	5月31日	20	
4	高梁川	高梁市 中井町 西方	5月24日	129	
5	高梁川	新見市井倉 白谷橋下流	5月16日	0	利用無し
6	小田川	井原市 木之子町	5月22日	83	
7	雄神川	井原市美星町 星田池	5月28日	0	冬ねぐらのみ
		高梁川水系での営巣数		458	ねぐら5ヶ所

海岸域					
No.	所在	確認した場所	調査日	個体数	備考
1	海岸域	備前市 片上湾 前島	5月14日	60	
2	海岸域	倉敷市通生 葛島	5月6日	240	
3	池	岡山市東区千手 千手大池	5月11日	0	林伐採コロニー消滅
4	池	瀬戸内市牛窓町鹿忍 池	5月11日	212	
		海岸域での営巣数		512	ねぐら3ヶ所

岡山県内における5月のカワウの営巣数	2196
--------------------	------

また，確認された場所を図－4に示す

図－5 ねぐら個体数を確認した場所

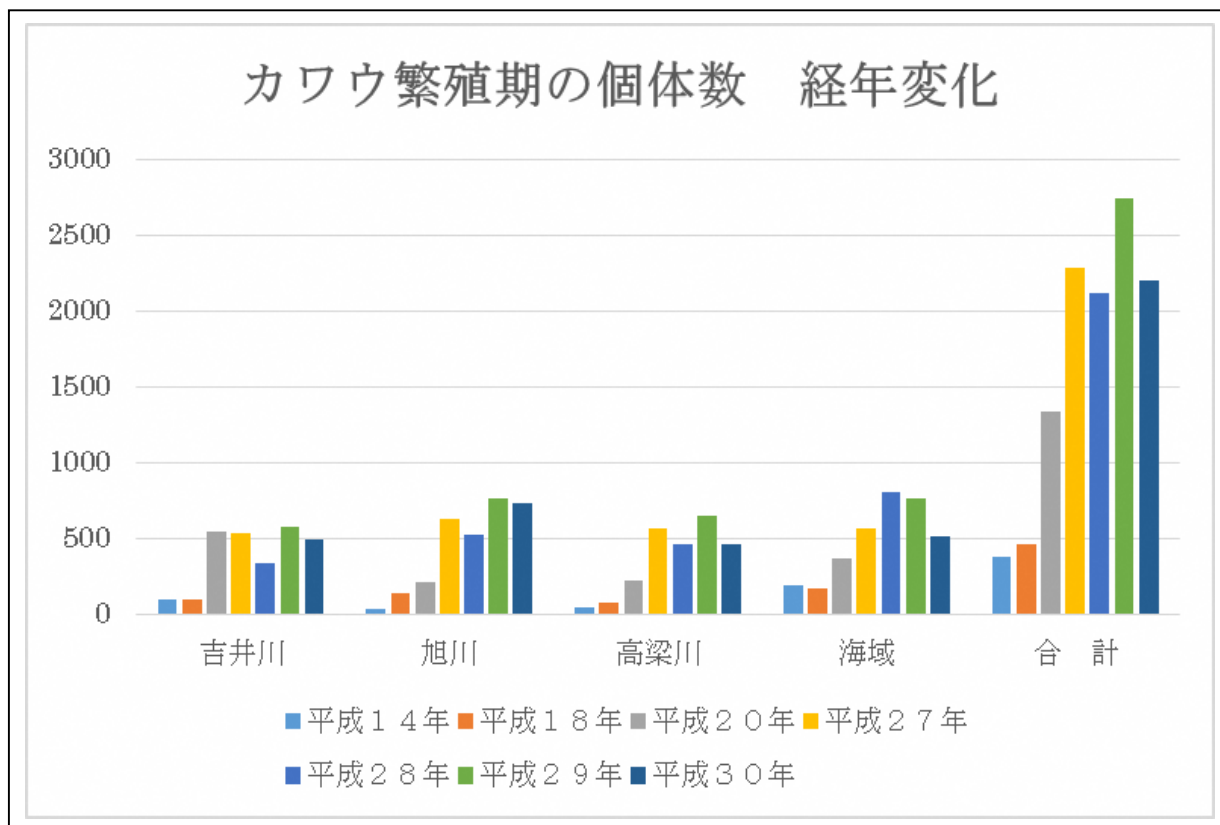


VI. カワウ個体数の考察

平成30年度 繁殖期において岡山県内に生息するカワウの個体数を夕刻に「ねぐら」入りする羽数をカウントする調査を行った結果、総数2,196羽であった。

この中で501羽以上を確認したねぐらは1個所、201～500羽のねぐらは3個所、51～200羽のねぐらは10個所、50羽以下のねぐらは6個所でした。51～200羽規模のねぐらが最も多く存在している。

図－6 カワウ繁殖期の個体数 経年変化図



上記図－6から繁殖期において平成18年ごろまでは全県下でも500羽以下であった。平成20年に1,000羽を大きく越え、平成27年ごろには2,000羽を越えた羽数を維持していることが判る。これは冬期のカワウ生息状況と異なり、県外から流入してきている個体ではなく、岡山県内で繁殖し増殖して来た個体の変化であるのでこの定着したカワウへの対応をどのようにして行くかが今後の大きな問題と思われる。